

主催：上越交響楽団
後援：上越市教育委員会 妙高市教育委員会

指揮／長谷川正規
コンサートマスター／三溝健一
ピアノ／山形明朗

上越交響

77th Regular Concert

楽団

ニコライ／歌劇「ウイーンザーの陽気な女房たち」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番
ブラームス／交響曲第4番

2016. **9/18** 日
14:00開演

上越文化会館大ホール

※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮願います。

本日は上越交響楽団の定期演奏会にお越し下さりまして、真にありがとうございます。今回演奏する曲、ラフマニノフのピアノ協奏曲とブラームスの交響曲は、ともに音楽の最高峰と言っても過言ではないほどでしょう。

ラフマニノフのピアノ協奏曲は超絶技巧を必要としますが、それでいてとても親しみやすく、堂々とした出だしや中ほどの胸がキュンとなるような、終わり頃の「これですか」と言いたくなるメロディーがとても楽しみです。

ピアノ独奏は上越市出身で世界的に活躍している新進気鋭の山形明朗氏、上越交響楽団との協演は初めてですが、これからの良きコンビになりそうです。

ブラームスの交響曲第4番はブラームスの生涯の集大成と言える曲です。

これらのオーケストラ曲を演奏することは無上の喜びで、毎回の練習はとても楽しみでした。どうぞ皆様もこの素晴らしい曲と演奏をお楽しみください。

指揮者

Masanori Hasegawa

長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科(チューバ専攻)を卒業。学部在学中に安宅賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。

ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。指揮の機会も多く、上越交響楽団、新潟市・北区フィルハーモニー管弦楽団、上越市民吹奏楽団等のほか、ミュージカルやオペラの分野に活動の幅を広げている。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



コンサートマスター

Ken-ichi Samizo

三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕祐、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“藝弦”(弦楽合奏)」「室内楽“EAU”(ピアノアンサンブル)」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他/常任・客演コンサートマスター、副指揮者(足立・松本)。音泉室内合奏団/ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



ピアノ

Akira Yamagata

山形明朗

東京藝術大学大学院音楽研究科ピアノ専攻修了。在学中より国内外のセミナーに参加、第12回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第一位、同時に特別賞受賞。

これまでにモーツァルト、ベートーヴェン、チャイコフスキー、ラフマニノフなどのピアノ協奏曲を各地のオーケストラと共演。2013年3月にはルーマニア国立コンスタンツァ歌劇場オーケストラに招聘され、ラフマニノフピアノ協奏曲第2番を共演しヨーロッパデビューを果たした。また、アンサンブル・ピアニストとしても国内外で活発な演奏活動を繰り広げている。

バリトン歌手としてもルネサンスから古典派までのレパートリーを中心に活動している。モーツァルトアカデミートウキョウ、Affetti Mvsicali、仙台コレギウムムジクム、各メンバー。新潟県上越市出身。



プログラム&曲目解説

■ニコライ／歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲

ニコライは幼少時より才能を見出され、歌手としてオペラのソロパートをこなせるほどの実力を持ちながら作曲家としても活躍し、名門ウィーン・フィル創設時に初代指揮者を務めた人です。

歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」はシェイクスピアの喜劇が原作です。主役は太った大酒飲みの騎士ファルスタッフ。彼が金策のため2人の貴婦人に恋文を出して金をせしめようとしています。婦人たちはファルスタッフが浮いた手紙をよこしたことに腹を立て、彼を懲らしめようと計画します。犯した罪と魂胆を白状

させようと夫や子どもたちも巻き込んで、ファルスタッフをさんざんな目に遭わせるという物語です。

序曲は低弦がのどかな田園風景を想わせるように歌い始めます。続く主部では3つの旋律が演奏されます。そして劇のクライマックスに登場する舞曲が奏でられ賑やかに終わります。ニコライはローマやベルリンでも活躍していたことから、彼の音楽表現はイタリアの軽やかさとドイツの重々しさを併せ持っており、この曲では両方の雰囲気を楽しめます。

■ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18

ラフマニノフはモスクワ音楽院のピアノ科と作曲科をともに首席で卒業しています。順風満帆と思われたこの若き駿才の人生最初の大きな挫折は、1897年にサンクトペテルブルクで行われた交響曲第1番の初演失敗とその後の悪評でした。一連の出来事は大きなトラウマとなり作曲活動の足かせになり、その後の約3年間はほとんど作曲活動ができず精神を病んでしまいます。しかし、作曲の道を諦めたわけではなく、小品を手がけながら1900年春に受けたモスクワの精神科医による催眠療法が功を奏したことで、満を持して1901年にこの大規模なピアノ協奏曲第2番を完成させました。

曲はピアノの低音部に流れる鐘の音で静かに幕を開け、圧倒的な叙情性とともに全3楽章を疾走します。その背後には作品全体にわたる抑揚の緻密な関連性が作用しています。第2楽章冒頭のコーラル的な和音進行(半音階による和声進行)は、敬愛するチャ

イコフスキーが好んでよく用いた響きでもあります。ロシアの伝統的技法によって作曲家自身の感情が結晶化されたこの作品は、初演時から大成功を収めて以来、不動の人気を博しています。

第1楽章 モデラート ハ短調 2/2 拍子

鐘を模したピアノ・ソロの序奏に始まるソナタ形式です。

第2楽章 アダージョ・ソステヌート ホ長調 4/4 拍子

コーラル的な和音進行の序奏に始まる3部形式です。

第3楽章 アレグロ・スケルツァンド ハ短調 2/2 拍子～ハ長調

ユニークでリズムカルな導入部につづいて、炎のような第1主題、対照的に叙情的な第2主題がともに変奏されながら Rond 風に展開します。

● 休憩 ●

■ブラームス／交響曲第4番 ホ短調 作品98

ブラームスの最後の交響曲である第4番は、第3交響曲完成の翌年1884年6月から作曲が始められ、作曲者51才から翌年にかけての作品です。ブラームスはかつて最愛の父と共に旅行を楽しんだこともある思い出の地、ウィーン西南の避暑地ミュルツツェーシュラクに別荘を借り、創作に専念しています。夏には早くも第1楽章と第2楽章を書き上げ、友人のエリーザベト・ヘルツォーゲンベルク夫人に送り、さらに彼女を介してクララ・シューマンにも見せています。そして翌年には第3、第4楽章を作曲するなど、創作の筆は順調に進みました。なお作曲中に隣家で火事があり、その勢いはブラームス宅にまで及ぶほどであったため、ブラームスは机に草稿を残したまま消火活動に協力、楽譜は友人が煙の中からかろうじて持ち出したと言うエピソードも伝えられています。

ブラームスは既に当代随一の作曲家として高い名声を得ていましたが、意外にもこの新しい交響曲がどのように受け入れられるか心配でならなかったようです。また演奏には万全のリハーサルが必要と考え、友人ハンス・フォン・ビューローが指揮者を務めていたマイニンゲン宮廷管弦楽団で初演することを計画し、予定よりも早めにマイニンゲン入りしてビューローと綿密なリハーサルを重ねています。

ブラームスはこの曲の完成後、さらに12年の歳月を生きているので最晩年の作品と言う訳ではありませんが、作品は何故か回顧的であり人生の秋を思わせる風情をたたえています。技法的には、まさに円熟を究めた巨匠の手になる豊かさを誇りますが、バロック音楽やそれ以前の音楽語法を引用した特徴もあり、第2楽章の主題には古い教会旋法のひとつフリギア旋法が用いられ、終楽章はバロック時代の変奏曲の形式パッサカリアにより構成されています。しかもその主題はバッハのカンタータ第150番「主よ、我汝を仰ぎ望む」の主題が採用されるなどバッハへの接近も見せています。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロppo ホ短調 2/2 拍子

溜息のように3度下行と6度上行を繰り返しながら静かに下行する主題は感動的で、後期のブラームスの個性がもっともよく発揮されています。この楽章はソナタ形式を土台としていますが、展開部は第1主題の変奏となっており、さまざまに形を変えて表現されます。

第2楽章 アンダンテ・モデラート ホ長調 6/8 拍子

ホルンが主題を奏するとオーボエとファゴット、さらにフルートにこの主題が受け継がれます。調性はホ長調ですが、この開始の主題は宿命的な印象を与えます。その後、ホ長調の柔和な調でこの主題が再提示されます。後期のブラームスの特徴である長調と短調の揺らぎが表現されています。

第3楽章 アレグロ・ジョコーソ ハ長調 2/4 拍子

ハ長調の明朗な曲調ですが、曲想表示にある「ジョコーソ」というよりもスケルツァンド的です。下行音階の動機で開始し、特徴的なトライアングルが高揚感を盛り上げます。

第4楽章 アレグロ・エネルジーコ・エ・パッションアト ホ短調 3/4 拍子

パッサカリアと呼ばれる手法で描かれており、バッハの「シャコンヌ」の主題をもとに全部で30の変奏が繰り返されます。この楽章は主題および第1変奏から第11変奏(提示部)、第12変奏から第15変奏(展開部1)、第16変奏から第23変奏(展開部2)、第24変奏から第30変奏(再現部)、そしてコーダという構成になっており、ブラームスはこれらの変奏曲を大きくソナタ形式的にまとめあげています。コーダでは第1楽章の下行3度の動機が再び用いられて作品を締めくくります。

■ 出演者

*は賛助出演ならびに団友

コンサートマスター

三溝 健一

第1 ヴァイオリン

飯吉 麻依子
上野 圭子
小菅 宏造
小森 裕
佐藤 さやか
洲崎 匡
橋本 士郎
平原 良晃
八幡 己津子
山川 美沙紀
横田 幸恵
岩田 貴守*
折原 裕子*
増井 健一*

第2 ヴァイオリン

青木 由美子
安藤 優
泉 紀子
大山 美乃子
加藤 由香里
佐藤 理果
高松 理恵
竹澤 敏江
田中 教生
藤田 尚
山田 美幸
石津 忠*
近藤 将弘*
八國生 紗也乃*

ヴィオラ

岩下 律子
清水 哉子
古海 法雲
渡辺 みほ
大庫 るい*
長尾 幸*
山際 宏志*
横田 裕祐*

チェロ

池田 なつき
稲井 進
上野 敦子
大坪 美樹
金森 史子
川合 礼
佐藤 慎悟
惣塚 弘
榎木 文子
村治 美代

コントラバス

秋山 雅央
吉崎 須賀子
林 可奈*
松原 直之*
山崎 康正*

フルート

齊藤 孝久
福田 幸久
丸山 恵理

オーボエ

羽賀 純子
橋本 直子
皆川 正弘
皆川 未央

クラリネット

齊藤 直美
鈴木 和久
富田 洋加
渡辺 英雄

ファゴット

福嶋 梓
宮口 弘明
鈴木 絢子*
山崎 真吾*

ホルン

飯田 美由紀
伊豫岡 美沙
笹川 修一
須田 孝義
森 真人
綿貫 英紀

トランペット

菅野 徳嗣
水越 舞
水澤 学

トロンボーン

笠野 光雄
西山 瑤
松田 彰英

テューバ

若井 一也*

パーカッション

稲田 善智
小浜 史頌
加藤 正之



団長 古海 法雲

副団長 茨木 真

■ 楽団紹介

1972年(昭和47年)結成。毎年2回開催している定期演奏会、各方面からの依頼演奏や行事への参加を通じて、広く市民に愛されています。

上越市を中心に、県内各地から音楽を愛する仲間が集い、質と達成度の高い音楽を表現すべく、様々な楽曲に挑戦しています。

ことに近年は上越市ゆかりの方との共演を果たしています。2012年、大越さとみ氏を招き、白鳥の湖(ナレーション付)を、翌2013年は牧田由起氏を招き、ブルッフのヴァイオリン協奏曲を披露、好評を博しました。

現在は指揮者に上越教育大学の長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎え、充実した活動を展開しています。

■ 次回演奏会のご案内 ■

第78回定期演奏会

日時：2017年3月19日(日)14:00 開演

会場：上越文化会館 大ホール

ベートーヴェン / エグモント序曲

シューベルト / 交響曲「未完成」

シューマン / 交響曲第1番「春」

■ 団員募集のご案内 ■

上越交響楽団では常時団員を募集しております。

募集パート等、詳しくはお問合せ下さい。

素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。

団員一同、心より歓迎いたします。

Mail : mako2034@joetsu.ne.jp

Tel : 090-1606-1254(茨木)

ホームページ:

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/>

